

平成 15 年 8 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社タムロン
 代表者名 代表取締役社長 小野守男
 (登録銘柄 コード番号 7740)
 問合せ先 常 務 取 締 役 白井義博
 管理本部長兼経理部長
 (TEL . 048 684 9111(代))

平成 15 年 12 月期中間 (連結・単独) 業績予想との差異及び
 通期 (連結・単独) 業績予想の修正について

平成 15 年 3 月 1 日付当社「平成 14 年 12 月期連結決算短信」及び「平成 14 年 12 月期個別財務諸表の概要」にて発表
 しました平成 15 年 12 月期 (平成 15 年 1 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日) 業績予想を下記のとおり修正致します。

記

1 . 平成 15 年 12 月期連結業績予想の修正

(1) 当中間期 (平成 15 年 1 月 1 日 ~ 平成 15 年 6 月 30 日) の業績予想の修正 (単位 : 百万円)

	売 上 高	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	21,000	1,200	800
今回修正予想 (B)	23,952	2,347	1,505
増減額 (B - A)	2,952	1,147	705
増減率 (%)	14.1%	95.6%	88.2%

(2) 通期 (平成 15 年 1 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日) の業績予想の修正 (単位 : 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	46,500	3,400	2,200
今回修正予想 (B)	54,000	5,100	3,200
増減額 (B - A)	7,500	1,700	1,000
増減率 (%)	16.1%	50.0%	45.5%

(3) ご参考 : 前期の実績 (平成 14 年 1 月 1 日 ~ 平成 14 年 12 月 31 日) (単位 : 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
通期 (1/1 ~ 12/31)	41,580	2,859	1,863

2. 修正理由

(1) 当中間期修正の理由

当中間期の連結売上高は、写真関連事業は予想に対し微増であったものの、レンズ関連事業はデジタルカメラ用レンズ分野が予想を大幅に上回る伸長を見せ、特機その他の事業についてもCCTVカメラ用レンズ分野を中心に予想以上の増収となり、全体として大幅な伸長となりました。

利益についてはデジタルカメラ用レンズ分野の増収効果や中国生産による原価低減、さらに写真関連事業も収益向上が図られ全体として予想を大幅に上回る結果となりました。

(2) 通期の連結修正の理由

通期の連結売上高は、写真関連事業は当初の予想を維持し、拡大するデジタル関連市場の需要に対応すべく中国工場を拡張、デジタルカメラ用レンズ分野、プロジェクター分野、CCTVカメラ用レンズ分野を中心に伸長させ、連結売上高で540億円を予定しております。

通期の利益については、デジタルカメラ用レンズ分野の増収効果及び中国工場の原価低減等により収益力の確保を図る予定で、連結経常利益で51億円(前期比32%増)、連結当期純利益では32億円となる予定です。

3. 平成15年12月期単独業績予想の修正

(1) 当中間期(平成15年1月1日～平成15年6月30日)の業績予想との差異 (単位:百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	20,000	1,100	700
今回修正予想(B)	22,932	2,047	1,220
増減額(B-A)	2,932	947	520
増減率(%)	14.7%	86.1%	74.3%

(2) 通期(平成15年1月1日～平成15年12月31日)の業績予想 (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	43,500	3,100	2,000
今回修正予想(B)	51,500	4,800	3,000
増減額(B-A)	8,000	1,700	1,000
増減率(%)	18.4%	54.8%	50.0%

(3) ご参考: 前期の実績(平成14年1月1日～平成14年12月31日) (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
通期(1/1～12/31)	38,915	2,315	1,254

4. 修正理由

(1) 当中間期修正の理由

単体の当中間期の売上高は、レンズ関連事業のデジタルカメラ用レンズ分野が当初の予想を上回る伸長を見せ全体として増収増益となりました。

(2) 通期の単体修正の理由

単体の業績予想についても、写真レンズ事業の収支改善及びデジタルカメラ用レンズ分野の増収効果により当初の予想を上回る増収増益を見込んでいます。

以上